

学図研・東京支部 2023 年度活動報告

2024 年 6 月 22 日

【支部会】

今年度の在籍会員数は 74 名、支部会は概ね対面とオンラインを併用しての開催となった。

2023 年 6 月支部会（玉川聖学院）では前年度の総会を行い、2022 年度活動報告と会計報告、また 2023 年度活動方針と予算案が確認された。また世田谷区立瀬田中学校司書の衛藤北斗さんの講演「言葉が宿る図書館づくり」を聴講した。

7 月支部会（東京都立南多摩中等教育学校）では、8 月に行われる全国大会関西大会における東京支部担当の分科会「学校図書館と著作権」について、配布資料・事前課題・グループワークの内容を確認し、当日のファシリテーターを決定した。また講師の原口直さんにオンラインで参加してもらい、プレを行った。8 月支部会は、例年通り実施しなかった。

9 月支部会（ドルトン東京学園中学部・高等部）では会場校司書教諭、関口真弓さんによる講演「進化する学校図書館～つなぐ図書館を目指して～」と図書館（ラーニングコモンズ）の見学を行った。さらに、全国大会の振り返りも行った。会計の宅間由美子さんが Googleform で所属・メールアドレス等の確認のアンケートを実施し、支部名簿の情報更新が行われた。

10 月支部会（東京純心女子高等学校）では 2024 年度の全国大会（埼玉大会）の日程や講演・実践報告者の報告があり、東京支部が受け持つ実践報告を受けた分科会の担当者を決定した。また岡田貴子さんから東京都学校司書配置状況調査についての報告を受けた。

11 月支部会（杉並区立富士見丘小学校）では、埼玉大会で実践報告を行う学芸大学附属世田谷中学校の村上恭子さんより内容紹介があり、報告後の分科会の内容や方向性について話し合った。

12 月支部会（玉川聖学院）ではお楽しみ会を久しぶりに行った。指人形・読み聞かせ・アニメーション、北欧図書館ツアーのスライド上映と、支部会員から多彩な出し物が披露された。さらに 2025 年度の全国大会の会場や日程の候補、課題点などを話し合った。全国大会の役割分担のうち、大会実行委員長を杉山和芳さん・大会事務局長を佐藤敏子さん、会場担当を杉山和芳さん・佐藤敏子さん・鳴川浩子さんが行うことが決まった。

1 月支部会（東京都立南多摩中等教育学校）では「八王子市の学校図書館サポートセンターについて」という報告を岡田貴子さんが行った。八王子市のサポートセンター職員、大橋道子さんにもゲストで参加してもらえた。2024 年の埼玉大会の分科会の準備の一環として、毎月の支部会で授業の小ネタの情報交換を行うことになった。1 月は千田つばささんが実践報告「ウェブサイトを読み解こう」を行った。

2 月支部会（千代田区立千代田図書館）は、第 1 部では通常の支部会を行った。第 2 部は拡大支部会とし、鳴川浩子さんに「学校図書館キホンの会」点検読書体験講座をしてもらった後、参加者のお悩み相談会を行った。参加者から出た悩みを共有し、各校での工夫や提案などの情報交換ができた。

3 月支部会（神田女学園中学校高等学校）では、佐藤敏子さんにミニ報告「新聞の読み方とまわし読み新聞づくり～発表会」を行ってもらった。また埼玉大会の実践報告及び分科会の方向性について、発表者の村上恭子さんを交えてコンセプトや会の進め方について話し合った。次月に予定されている飯田一史さんの講演会の準備として、同氏の著作『「若者の読書離れ」というウソ 中高生はどのくらい、どんな本

を読んでいるのか』（平凡社新書）の感想や質問を集めた。支部会後には、同じ地域にあるキハラ本社を見学した。

4月支部会（玉川聖学院）は飯田一史さんによる講演会を行った。講演前には学校司書配置状況調査用紙の発送準備と支部会を行い、埼玉大会の総会記録担当の決定、分科会のグループワークのファシリテーターの内容について確認した。拡大支部会とした講演会では、読書データから読み取れる子どもの読書傾向及び出版状況について触れたのち、主に中高生が何を好んで読んでいるのか、三大ニーズと四つの型を基に具体的な作品を挙げながら話してもらった。

5月支部会（東京学芸大学附属世田谷中学校）では、埼玉大会の実践報告発表者2名によるプレを行い、内容の確認をした。その後「私たちの課題」を検討した。

【全国大会】

全国大会大阪大会は2023年8月に対面とオンラインを併用して開催された。

東京支部担当の分科会テーマは「学校図書館と著作権」。前半は講師の原口直さんにオンラインで模擬授業と講義を行ってもらった。中学一年生対象模擬授業を実際に体験することで、学校における著作権の基本について理解が深まった。オンラインツール「AhaSlides」を使うことで、オンラインにもかかわらず講師との双方向のやり取りがスムーズにできた。後半にはグループに分かれ、教員や子どもたちに著作権をどう伝えるかをテーマにしたグループワークを行った。

2024年度の全国大会埼玉大会では東京学芸大学附属世田谷中学校の村上恭子さんと渡邊裕さんによる実践報告「学びの場としての学校図書館～どう使う？ どう遊ぶ～」が行われることになっている。発表者が東京支部の会員なので、その実践報告を受けた分科会を東京支部で行うことにし、準備を進めている。教科の授業で学校図書館を活用してもらうには、教職員とどのような連携を取ればいいのかについて考える場としたい。

【役員体制】

支部ニュースは、前田紀子さん、佐藤敏子さん、関根真理さん、土屋知恵さんの4名の編集委員のもと、月1回発行され、毎回大変充実した内容となった。月例支部会の報告、輪番を基本とした会員の執筆原稿が発信され、会員の実践や動向を知る重要なものとなっている。

会計は宅間由美子さんが担当となり、二井依里奈さんは会計監査となった。印刷発送・メーリングリスト担当は佐々木愛さん、HPは清水紀子さん、支部代表は杉山和芳さんが担当した。

全国事務局次長（渉外担当）を鳴川浩子さん、全国一般会計を谷口裕美子さん、全国ニュース編集担当を歌川美歌さん、全国委員は千田つばささんが担当した。

【学校司書配置状況調査】

前年から調査チームによる取り組みを行っている。今年度は上田暁子さん、歌川美歌さん、大浦和子さん、大澤倫子さん、岡田貴子さん、安田彩子さんが調査チームのメンバーとなって調査を行った。各教育委員会への電話連絡係として大口和枝さん、佐藤久栄さん、菊池保夫さんに支援をもらった。今年度

は日本図書館協会学校図書館部会でも同様の調査が行われたが、学図研で長期にわたって継続して調査を行っている意味は大きい。結果は学図研・東京支部のホームページで公開した。

【その他】

第10回「東京・学校図書館スタンプラリー」が開催され、会員の勤務校が複数参加した。

他団体との連携として「東京の図書館をもっとよくする会」の世話人に菊池保夫さんを派遣した。

（文責 杉山和芳）